

平成 21 年 11 月 30 日

鳩山由紀夫内閣総理大臣殿

菅直人国家戦略担当大臣殿

川端達夫文部科学大臣殿

日本核磁気共鳴学会会長 阿久津秀雄

要 望 書

科学技術の長期的発展を視野に入れた政策的対応を

—事業仕分け評価の予算への反映に当たって—

政府の行政刷新会議による「事業仕分け」により、若手支援プロジェクト、大学運営交付金、科学研究費補助金およびさまざまな大型プロジェクトなどについて厳しい評価が下されています。予算の無駄をなくすために現在行われている事業を厳しく査定すること自体は時宜を得た試みといえます。しかし、これは単なる政治ショーであってはなりません。わが国の将来を見据えた責任のある仕事であることを自覚して行われるべきです。科学技術関連の評価を見る限り、慎重な検討に基づく責任ある結論を出しているとはいえません。その意見は傾聴に値するものを多く含んでいるとはいえ、かなり断片的、感覚的で、長期的見通しにたった責任あるものとはなっていません。したがって、意見の分布も広いものとなっていますが、これを強引にまとめて一つの結論を出しています。制度の見直しの提言などには、今後真摯に検討されるべきものを含んでいます。しかし、来年度予算までに、専門家を含めてこのような見直しをすることは不可能であり、実行されるのは財務省の求める予算の削減だけであることが予想されます。法人化以降、大学は基盤的経費を削減されてその運営は脆弱なものとなり、競争的研究資金に頼らざるを得なくなっています。わが国の高い研究水準を支えているのも競争的研究資金です。若手研究者の育成、女性研究者の支援もわが国の研究の発展になくはなりません。これらは相互に深く関係した問題です。仕分け評価を生かす道は、来年度予算では今の水準を維持しつつ、仕分けで提起された問題について専門家を含めて多角的な検討を行い、新しい制度設計と予算方針を出すこととあります。単なる予算削減が行われれば、大学、研究所を中心としたわが国の研究体制はさらなる財政的弱体化により大きな危機にさらされるでしょう。本学会の会員は、核磁気共鳴を通じて物理、化学、生物学、医学、薬学などの学術や、関連する産業に広く貢献してきました。核磁気共鳴は、他では得られないユニークな情報を得るために、超伝導磁石など規模の大きい装置を用いる必要があります。このため、本仕分けのような科学技術予算の削減は核磁気共鳴の基礎的、応用的研究を困難にします。これは、日本の未来を担う科学技術、さらには産業の発展を阻害し、われわれが世界との厳しい競争に打ち勝っていくことをも困難にします。

私は日本核磁気共鳴学会理事会の決議に基づき、本学会を代表して鳩山由紀夫総理大臣、菅直人国家戦略担当大臣および川端達夫文部科学大臣がわが国の将来にかかわる科学技術施策の仕分け評価の取り扱いにおいて、長期的、世界的視野から強い政治的指導力を発揮されることを強く要望するものです。